

内外の化学繊維生産動向

- 2009年 -

2010年1月22日発表分に以下の誤りがありました。
お詫びして訂正致します

p 5	【誤】	【正】
	ナイロン；前年比 <u>7%増</u> の	前年比 <u>3%減</u> の
	中国は <u>25%増</u> の <u>71万トン</u>	<u>20%増</u> の <u>134万トン</u>

2010年1月27日（修正）
日本化学繊維協会

本資料の2009年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会が推定したものです。

1 . 世界の繊維生産

表- 1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

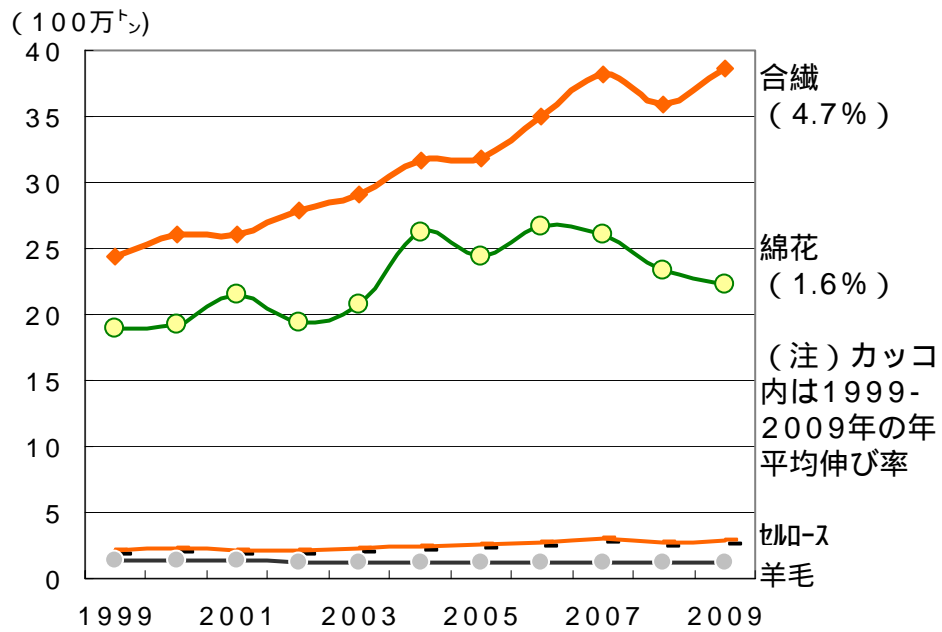
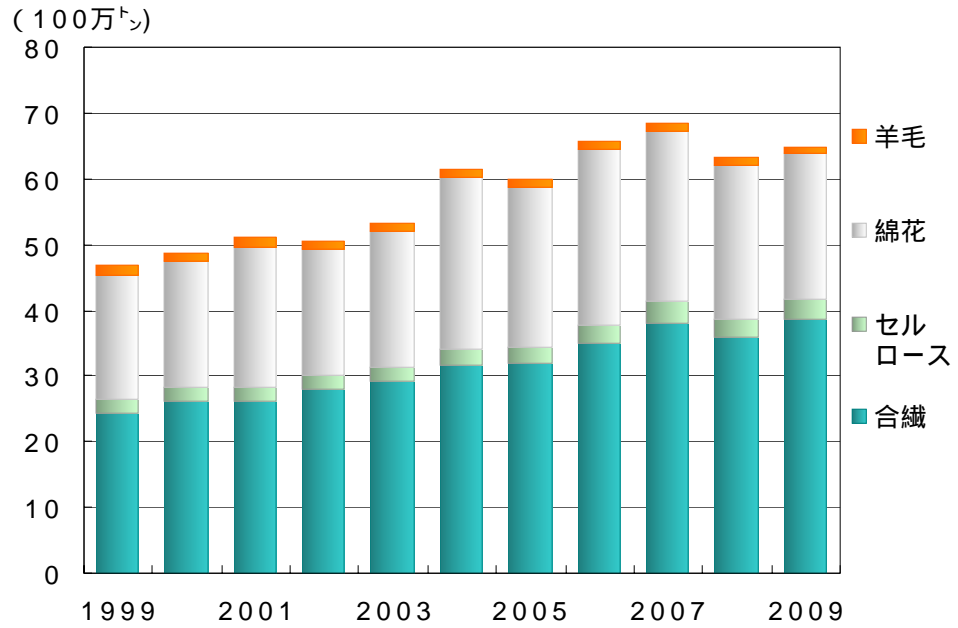
	全繊維	化学繊維		綿	羊毛	絹	
		合繊	セルロース				
2003	53,467	31,419	29,163	2,256	20,720	1,227	102
2004	61,689	34,149	31,694	2,456	26,204	1,220	115
2005	60,204	34,455	31,863	2,593	24,398	1,218	133
2006	65,782	37,768	35,068	2,699	26,635	1,234	145
2007	68,636	41,248	38,149	3,099	26,030	1,202	156
2008	63,320	38,572	35,846	2,726	23,400	1,200	148
2009	65,051	41,563	38,613	2,950	22,200	1,140	148
09/08(%)	2.7	7.8	7.7	8.2	-5.1	-5.0	0.1
構成比(%)	100.0	63.9	59.4	4.5	34.1	1.8	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2009年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比3%増の6,510万トであった。綿は5%減に対し、化学繊維は8%増であった。
- 天然繊維については、綿は5%減となり、消費の減退から3年連続の生産減となる見込み。中国の生産が大きく減少し、米国、ウズベキスタンが微減。一方、インド、パキスタンは増加が見込まれている。羊毛は、最大生産国のオーストラリアの減少が続き、世界全体では5%減となる見込みである。
- 化学繊維は前年比8%増の4,160万ト。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は8%増の3,860万ト。セルロース繊維（アセテートトウを除く）は同じく8%増の295万ト。
- 化学繊維の生産は、2008年は世界的な景気後退により、1982年以来の大きな落ち込みとなったが、2009年は、国・地域毎に差はあるものの、総じて年後半に回復基調をみせ、年間では前年を上回るものとなった。ただ量的には4,160万トと、2007年の4,120万トの水準に戻ったに過ぎない。

図-1 世界の主要繊維の生産



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、中国は内需の好調から前年比16%増と大きく回復した。インドも同様に内需主導で10%増を果たした。ASEANは4%増、台湾は2%増と緩やかに増加。韓国は前年並みを維持した。一方、米国は11%減、西欧は15%減、日本は25%減と減少を続けている。

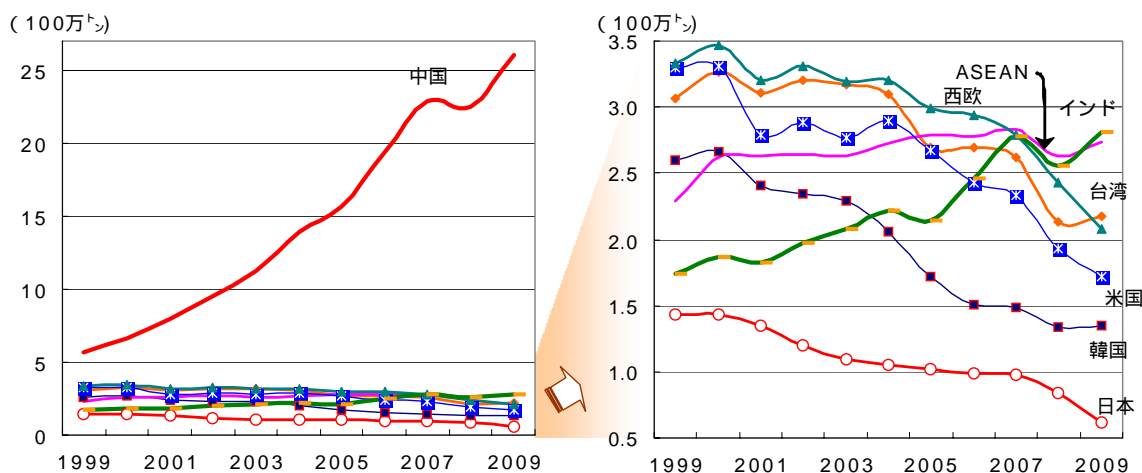
表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2009年)

地域	ポリエステル		ナイロン S+F	アクリル S	合 織 計	セロース 計	化 織 計	構成比 (%)
	フィラメント	スチープル						
日 本	163 -33.1	146 -23.4	75 -34.5	124 -14.7	570 -26.1	58 -16.4	627 -25.3	1.5
韓 国	669 -1.6	496 4.0	131 0.2	41 -4.4	1,337 0.5	8 -1.0	1,345 0.5	3.2
台 湾	1,000 -1.2	563 12.0	379 -6.9	111 32.7	2,073 2.3	107 1.0	2,179 2.3	5.2
中 国	14,162 15.5	7,966 15.5	1,341 20.0	705 25.0	24,455 15.8	1,598 15.0	26,053 15.7	62.7
ASEAN	1,233 1.3	906 4.7	84 -10.0	90 2.3	2,322 2.2	419 15.7	2,741 4.0	6.6
イ ン ド	1,450 8.4	870 16.6	88 -2.6	95 16.1	2,502 11.0	313 4.4	2,815 10.2	6.8
米 国	384 -7.0	536 -17.0	673 -9.2	0 0.0	1,703 -10.8	20 -13.0	1,723 -10.8	4.1
西 欧	322 -25.0	405 -15.0	338 -25.8	573 -2.1	1,701 -15.3	378 -10.7	2,079 -14.5	5.0
世界計	19,794 9.8	12,750 8.5	3,513 -2.8	2,007 7.2	38,613 7.7	2,950 8.2	41,563 7.8	100.0

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

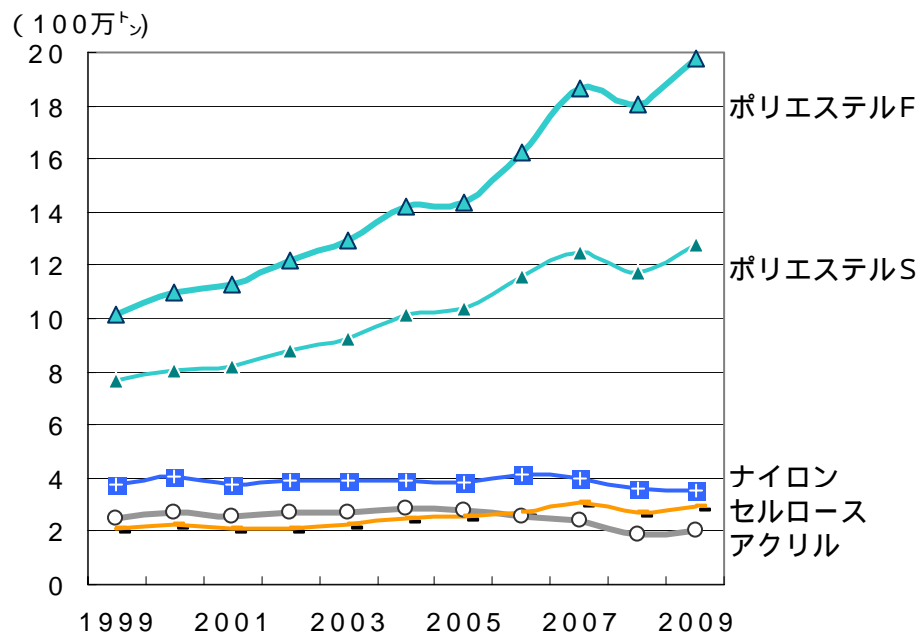
- 中国は、その急速な回復により、世界の生産に占める割合は前年の58%から2009年は63%に拡大した。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



- 韓国は2008年に大きく落ち込んだが、2009年はポリエステルSの回復で横ばいを維持した。台湾は2008年の大幅減の反動増もあり7年ぶりの生産増となった。ASEANは各国総じて回復を示し、全体では4%増と見込まれる。米国は改善がみられず5年連続の減少で、10年前の約半分の水準に縮小。西欧はポリエステルを中心に全般に不振で2008年に引き続き2桁減であった。
- 主要品種別では、ポリエステルは、フィラメントが前年比10%増の1,980万ト、ステープルが9%増の1,280万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は2008年の77%から78%に拡大した。
- ナイロンは3%減の351万トで、3年連続の減少。フィラメントは2%減、量は少ないもののステープルは13%減であった。ステープルは欧米のカーペット用が大きく減少した。
- アクリルSは7%増の201万ト。2008年は他素材との競合激化もあり大きな落ち込みとなったが、2009年は増加に転じた。セルロース繊維は、フィラメントが微減となったものの、ステープルが増加となり、全体では8%増の295万トであった。

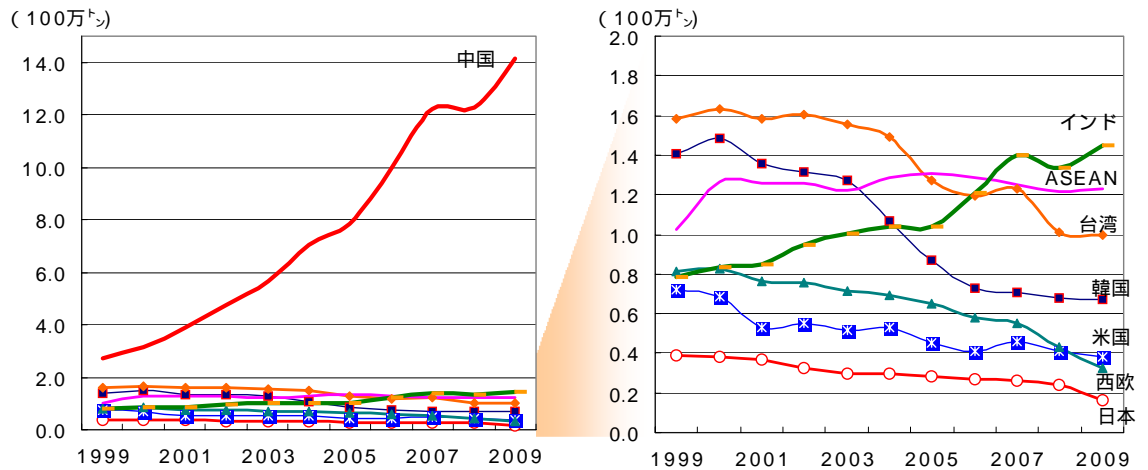
図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



- ポリエステルF：前年比10%増の1,980万ト。世界の72%を生産する中国が16%増と2008年の失速から急速に

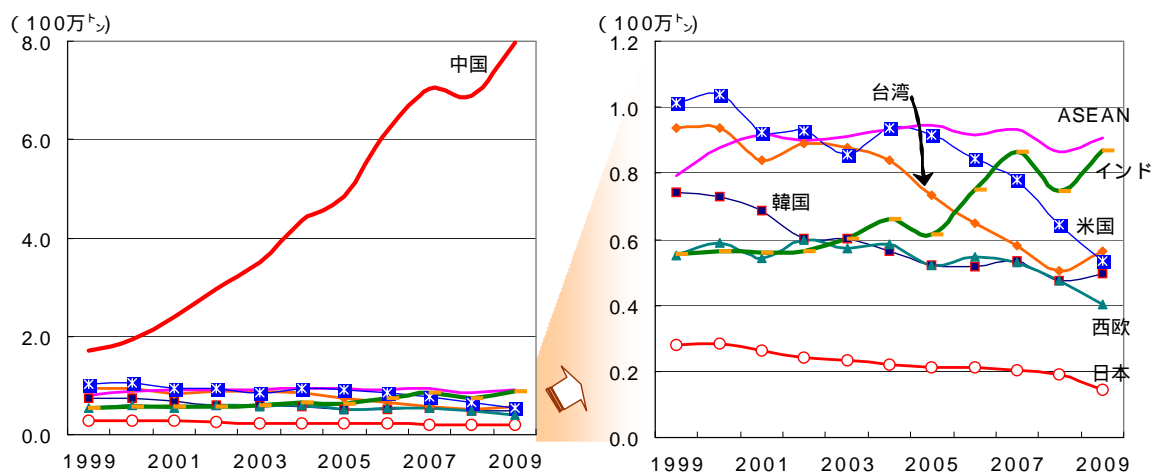
回復した。インドも2008年の落ち込みから8%の増加に転じた。ASEANは1%増であった。日本、西欧は2桁減、米国は7%減となった一方、台湾は1%減、韓国は2%減にとどまった。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



- ポリエステルS：前年比9%増の1,280万ト。中国が16%増と前年の落ち込みから急回復。インドも同様に17%増となった。ASEANは一部工場再開もあり5%増。輸出の回復傾向もあり、台湾は12%増、韓国は4%増。米国は大手メーカーの撤退もあり2桁減が続いている。日本、西欧も2桁減。

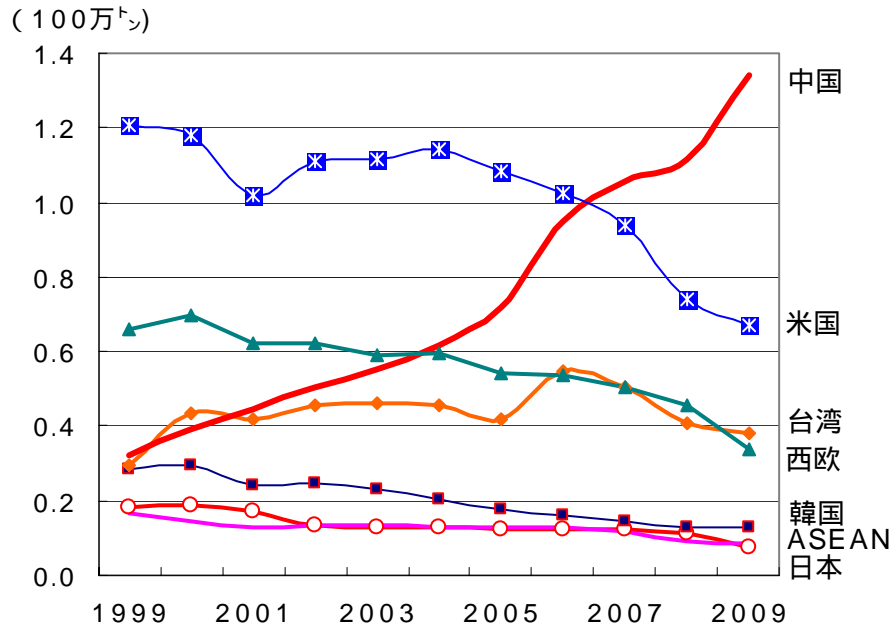
図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



- ナイロン：前年比3%減の351万ト。中国は20%増の134

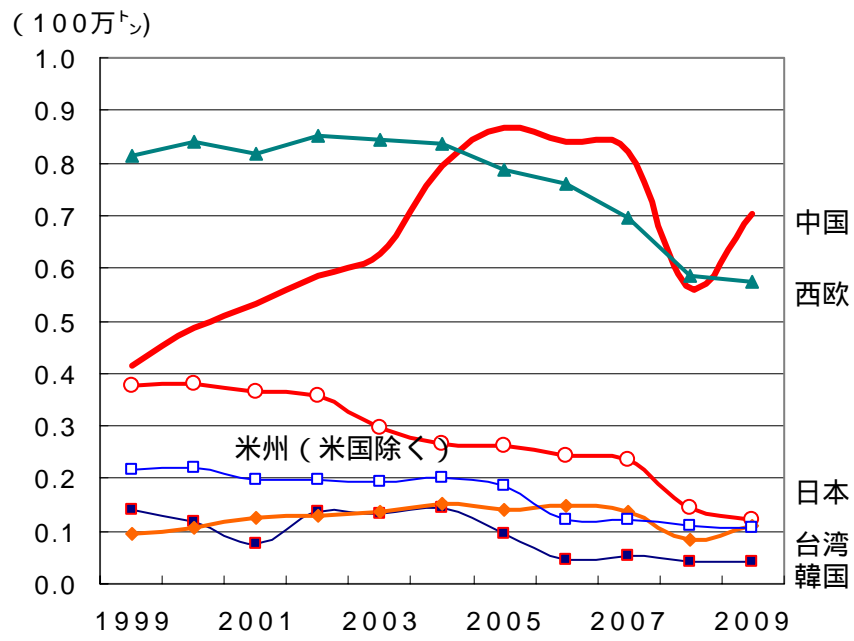
万トと大幅増。米国は全体の8割強を占めるカーペット用の不調が続き、5年連続の生産減となった。台湾は3年連続、西欧は5年連続の減少となった。この結果、中国の世界の生産に占める割合は、2008年の31%から2009年は38%に拡大した。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比7%増の201万ト。原料価格高騰で素材代替が進展し2008年は大幅な減少となった中国は25%増と増加に転じた。西欧は2%減で7年連続の減少。日本は15%減と減少が続いている。輸出の回復から、台湾は33%増であった。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



(注) 日本は2000年までフィラメントを含む

3 . 日本の化学繊維生産

- 2009年の日本の化学繊維生産は前年比23%減の83.3万ト(速報。オレフィン、アセテートトウを含む)で100万トの大台を割り込んだ。化繊生産が2年連続2桁減となるのは、1975年以来のことである。また22.3%減は1958年の22.6%減に次ぐ戦後2番目の落ち込みである。合繊が24%減、セルロース繊維が11%減で、ポリエステル、ナイロンを中心に合繊の落ち幅が大きかった。

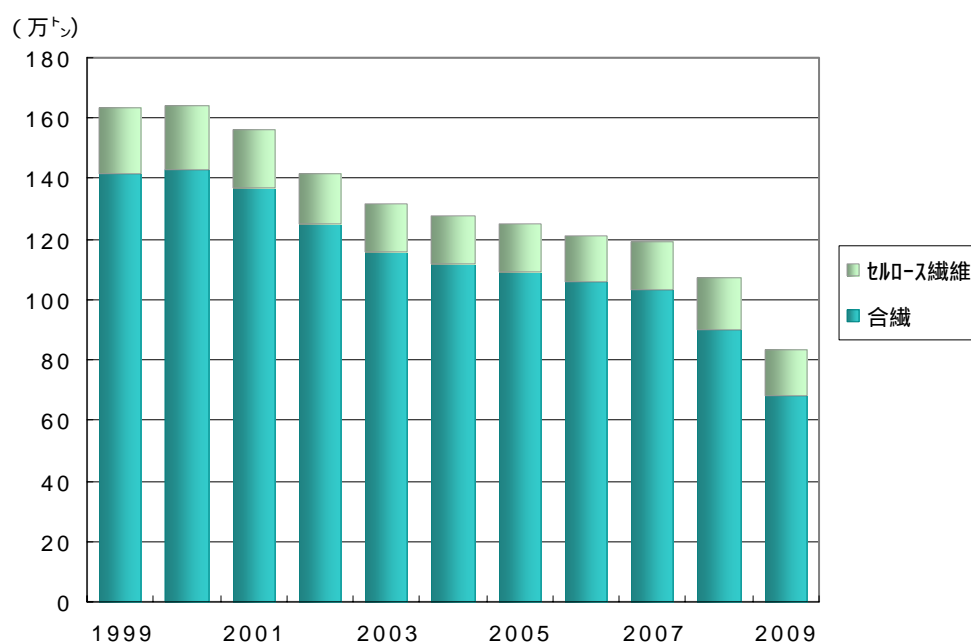
表-3 日本の主要化学繊維の生産

	(1000ト)				
	2006	2007	2008	2009	09/08%
ポリエステルF	269.9	261.6	243.6	163.0	-33.1
ポリエステルS	213.3	203.8	191.0	146.2	-23.4
ナイロンF	117.5	116.5	112.0	73.6	-34.3
アクリルS	242.9	236.4	145.0	123.6	-14.7
ポリプロピレン	127.4	126.6	125.3	107.2	-14.4
合繊計	1,060.7	1,034.6	902.0	682.4	-24.3
レーヨンS	36.2	41.4	39.3	35.7	-9.2
アセテート	97.3	101.1	113.6	101.7	-10.4
セルロース計	148.5	158.3	168.9	150.2	-11.1
化繊計	1,209.2	1,192.8	1,070.9	832.6	-22.3

(出所) 経済産業省。09年は推定値。

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化繊生産



- 合成繊維の生産は同24%減の68.2万トで9年連続の減少。

主要品種が軒並み2桁減であった。衣料用に産資用の不振が加わり、ナイロンF、ポリエステルFはともに33～34%の大幅減。ポリエステルSは23%減であった。ポリプロピレンは14%減、2008年は39%減と大幅に減少したアクリルは15%減と引き続き減少したものの、減少幅は縮小した。

- セルロース繊維の生産は15.0万ト、同11%減。レーヨンSは9%減で2年連続の減少。アセテートSも減少した。セルロースF（アセテート+キュプラ）は前年比4割減と大きく落ち込んだ。

図-10 日本の主要合繊生産

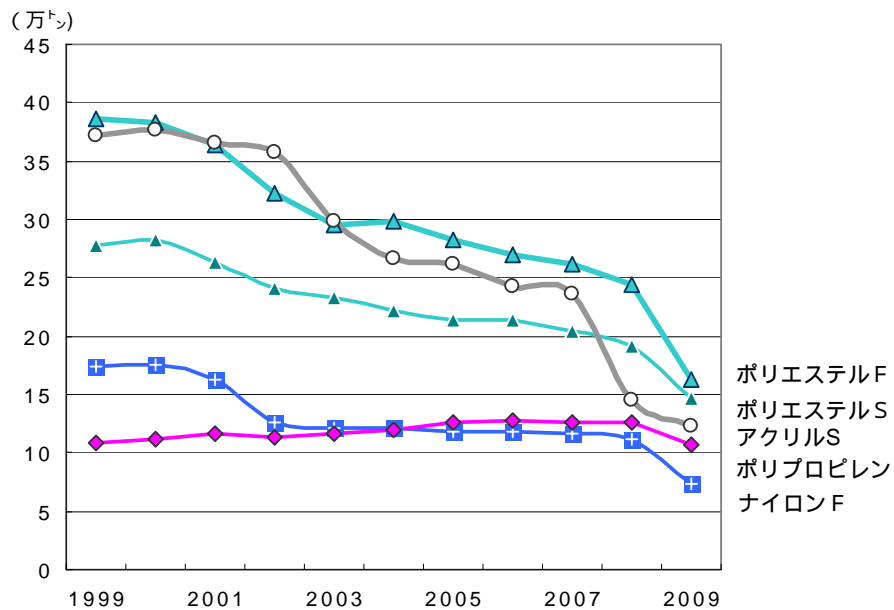


図-11 日本の主要セルロース繊維生産

